題名：横浜労災病院で妊娠高血圧症候群のため入院した患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 （承認番号）	妊娠高血圧症候群における妊娠中の胸部レントゲン所見による臨床的意義探索の後ろ向き観察研究 （2026-23）
当院の研究責任者 （所属）	柊　一哉（産婦人科）
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	妊娠高血圧症候群（HDP）では、妊娠中に血圧が上昇するだけでなく、心臓や肺に負担がかかり、胸水や肺水腫、心臓の大きさの変化などがみられることがあります。しかし、妊娠中に撮影された胸部レントゲンの所見が、その後の妊娠経過や分娩時・産後の合併症とどのように関係するかについては、十分に明らかになっていません。 本研究では、妊娠高血圧症候群のため入院された患者さんの診療記録および胸部レントゲン画像を用いて、胸部レントゲン所見と妊娠高血圧症候群の重症度、分娩時の臓器障害、産後の合併症などとの関連を調べます。これにより、胸部レントゲン所見が、妊娠高血圧症候群の重症度やその後の経過を評価するための参考となるかを明らかにすることを目的としています。
研究の方法 （利用する試料・情報）	本研究は、2022 年 1 月以降に妊娠高血圧症候群を発症し当院で入院・分娩した方を対象とします。すでに通常の診療の中で得られた診療記録および胸部レントゲン画像を用いて行う後ろ向きの観察研究です。研究のために新たな検査、採血、レントゲン撮影、治療などを行うことはありません。 診療記録から、年齢、妊娠週数、血圧、身長、体重、血液検査・尿検査の結果、妊娠高血圧症候群の重症度、分娩時の経過、産後の合併症などの情報を収集します。また、妊娠中に撮影された胸部レントゲン画像から、心臓の大きさを示す心胸郭比（CTR）、胸水や肺水腫などの所見を評価します。さらに、レントゲンの撮影方法による違いについても検討します。 研究実施期間：　　2026 年 11 月～　　2027 年 12 月
利用する試料・情報の 該当期間	2022 年　1 月～　　2026 年 9 月

試料・情報の他の研究機関への提供および提供方法	他の医療機関への情報提供なし
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：柊一哉　　(所属：産婦人科)
備考	